優しさにほっこり

―― uchiko hokkori marche ――

ママの手マルシェ

小さな編みぐるみを握る小さな手 ――。それを見るママもほっこり。忙しいママたちにホッとできる時間を提供したいと、マルシェを企画したのも子育て中のママでした。優しさいっぱいのマルシェは大好評。子育てを支えたり、楽しんだりするヒントもありました。次回も開催が楽しみな「内子のほっこりマルシェ（以下、ほこマル）」。広報うちこの特集で、少しのぞいてみましょう。

いっぱい、はなそう。わらって、あそぼう。今日はママも楽しむ日

11月19日に内子まちの駅Nanzeで開かれた「第1回内子のほっこりマルシェ」。会場には、ママや子どもの笑顔があふれ、すてきな空間が広がっていました。

ママの笑顔に、赤ちゃんもとってもうれしそう

家族みんなでほこマルに参加

かわいいクッキー買ってもらったの

今日はファッションにも力が入る

子どもに大人気だったキッズネイル体験

出店者もママ、来場者もママ。ママ同士の会話が弾む

ママに優しいマルシェ誕生

「わー、かわいい」「見るだけで癒される」。ハンドメイド作品を手に取るお客さんたちは、思わず笑顔がはじけます。この日開かれていたのは「第1回内子のほっこりマルシェ」。会場の内子まちの駅Nanzeには、ベビー雑貨や布小物のほか、クレープやハンバーガーのキッチンカーなどが並んでいます。たくさんの人々でにぎわっていましたが、特に目立つのは小さな子を連れたママたちの姿。赤ちゃんを抱っこしながら出店者とにこやかに話したり、テラス席でゆっくりと食事を楽しんだり、ママ同士であいさつしたりと、和やかな雰囲気が会場を包んでいました。

「ほこマル」発起人の一人、金森真理子さんは「ハンドメイド好きの4人が出会ったのが始まり。『内子でマルシェとかしたいよね』って提案したら、みんな同じことを考えていて、すぐに決定。3カ月も経たないうちのスピード開催だった」と笑います。

準備期間は短いですが、子育て中の4人が考えたから、自然と子連れに優しいマルシェになりました。「子どもが簡単に食べられるメニューが助かるよね」「みんなで子どもを見守れる店の配置にしよう」と、ママへの気遣いや優しい工夫が詰まっています。来場者からは「いい気分転換になった」「休憩場所もあって助かる」と大好評でした。

「ほこマルが家事や育児に頑張るママへのご褒美になったらうれしい。この日は、ママも子どもも一緒に楽しい時間を過ごしてね――」。4人の優しい思いから、ほこマルは誕生しました。

編みぐるみに目がくぎ付け。小さな手でぎゅっと握りしめる

ママと一緒にハンドメイド作品を選ぶ

今日だけのスペシャルメニュー

キッチンカーの前で、仲良く順番待ち

テラス席でゆったりと過ごす来場者

ママのお手製だから
作品も「ほっこり、かわいい」

「子どもが寝た後や保育園の時間がチャンス！」と笑う４人。大変だけど頑張れるのは、作品を喜んでくれる人たちがいるから——。思いを聞くと、作品にもママや子どもたちへの優しさや工夫が詰まってることが分かりました。

※マスクは撮影時のみ外しています。

原動力はみんなの笑顔——

ほのぼのいーと／アイシングクッキー

児玉　和美さん　＝内子18第１＝

初めて作ったアイシングクッキーは、息子への誕生日プレゼント。すごく喜んでくれて、その楽しさにはまり、今では自宅の小さな工房で本格的に制作しています。かわいくておいしい、ワクワクできるクッキーを作りたいです。

以前は委託販売だけでしたが、お客さんの反応を見られるのがうれしくて、県内のいろいろなマルシェに参加するようになりました。小さな子が「かわいい」って喜んでくれたり、「また来たよ」と声をかけてくれたりして、私も「また会いたい、喜んでほしい」と頑張っています。

ほこマルは自分たちが初めて企画したマルシェなので特別感があります。第１回は始まるまで「来てくれるかな」「喜んでくれるかな」とドキドキでした。次回のほこマルももうすぐ。どんなクッキーにしようかと、胸を弾ませながら準備しています。

人の手が込んだ温かさを届けたい

itote／刺繍小物、布小物

河野　歩さん　＝田中＝

屋号の「itote」は糸で布と布を結び付けていくように、人と人とをつなぐ作品を作りたいという思いを込めています。使ってくれる人のために、ひと針ひと針、時間をかけて刺繍しているので、市販のものにはない人の温もりを感じられるのがitoteの魅力です。

内子に住み始めてまだ１年くらいですが、ほこマルメンバーの３人と出会えて、この町が特別な場所になりました。人が温かくて、ゆったりとした雰囲気も気に入っています。私の作品には小学６年生のかわいいファンがいます。イベントなどにitoteコーデで来てくれて、やりがいを感じています。最初は娘のために髪留めを作ったのがきっかけだったので、小さなファンが増えたらうれしいです。内子にハンドメイドの店を開く夢をかなえるため、子育ての合間に、動画や本を読みながら自分のペースで勉強したいです。

子どもが寝た後のお楽しみタイム

MARI crochet／編みぐるみ

金森　真理子さん　＝内子20＝

編み物は祖母が先生をしていて、小さい頃から好きでした。今は動物や花の編みぐるみなど、子どもに喜んでもらえるものを作っています。

「子育てしながらは大変じゃない？」とよく聞かれますが、子育てはイヤイヤ期真っただ中の２歳の息子がいるので、もう大変（笑）。でも子どたちが寝静まった後に、ドラマを見ながら編み物をするときが、私にとっての至福の時間です。娘が私の作品が大好きだったり、娘の友達も私が作った髪留めを付けてくれたりするので、大変だけど大切な時間になっています。

嫁いできた頃は内子に友達がいなくて、心細い思いをしていました。ハンドメイドを通じてほかの３人と出会い、ほこマルが開催できました。ママ同士がつながれると本当に楽しいです。これからも続けて、みんなに喜ばれるマルシェとして地域に根付けたらいいですね。

ハンドメイドでママを助けたい

HIDAMARI／ベビー雑貨、布小物

山本　絵梨子さん　＝宮原＝

私が初めて作ったのは息子のよだれかけでした。市販のものは肌に合わなくて荒れてしまったり、吸収が間に合わずベトベトになったり——。我が子に合うよだれかけがないなら、自分で作ろうと思ったのがきっかけです。ダブルガーゼのよだれかけは他のママたちからの評判も良く、今では「HIDAMARI」の人気商品になっています。

マルシェの良さは直接ママたちの声を聞けるところ。悩みも愚痴もいっぱい話してください（笑）。「オムツとお尻拭きがバッグの中でぐちゃぐちゃになる」という声から生まれた商品もあるんですよ。忙しい毎日を過ごすママに、少しでもほっこりしてほしいから、とびっきりかわいく仕上げています。赤ちゃんの時期しか味わえないかわいさを、商品と一緒に楽しんでもらいたいですね。ほこマルでも、心が和らぐような時間や商品が提供できたらうれしいです。

優しさにほっこり ママの手マルシェ

uchiko hokkori marche

ほこマルをやってみて、感じたのは、
みんなとつながると、もっと楽しいっていうこと――
「ママを応援したい」という気持ちも膨らんでいます。

つながると、うれしい 会いたいがとまらない 笑顔で待ってるよ

第２回ほこマルに向けて 膨らむ４人の思い

第１回のほこマルは大成功。メンバーの４人は「みんな楽しんでくれて、こっちも幸せな気分」「一番楽しんだのは私たち」と振り返ります。お客さんとつながれるのがうれしすぎて、座る暇もないくらい話し続けていました。終了後すぐに第２回の話が出るほど、反響がうれしかったと言います。

課題や反省点も見つかりました。４人だけだと車の誘導や会場の案内など、細かな部分までの気配りができません。メンバーの家族や友達に急遽手伝ってもらいました。「とても助かったけれど、今後も続けるなら課題になる。運営を支えてくれる仲間もいるね」と指摘します。「第２回内子のほっこりマルシェ」の作戦会議も始まり、いろいろなアイデアや提案が出ています。「フォトスペースを設けて、思い出に残してもらいたい」「次はこんなキッチンカーを呼びたい」など、期待と思いは膨らむばかりです。金森さんは「まだ1回しかできていないし、大それたことは考えていない。でも、たくさんのママたちの笑顔を見させてもらって、私たちのマルシェがママたちの居場所になれたらなという気持ちが芽生えた」と思いを語ります。

輝くママの笑顔が 町のみんなの元気に――

４人の「ハンドメイドが好き」という思いで始まったほこマルですが、育児をしながら好きなことを楽しむ姿は輝いていて、すてきです。ママ目線の優しいイベントにも学ぶことがたくさんあります。何より、子育て世代同士のつながりや、助け合いの大切さを改めて感じました。ママの元気は子どもたちの元気。子育ての悩みなどを分かち合える場所が、町にどんどん増えたらいいですね。メンバーの皆さんも「いっぱい話して、笑って遊んで、一緒に内子を楽しもう」と呼びかけています。第２回も笑顔で会いましょう。

1_第２回のほこマルに向けて作戦会議。子どもが寝静まった後にテレビ電話することも　2_チラシを配るメンバー　3_新作の編みぐるみを制作　4_真心(まこ)ちゃん（右）はママの編みぐるみが大好き　5_４人の作品。たまらないかわいさ　6_第１回のほこマルを盛り上げた出店者の皆さん

私たちもママを応援したい

Interview

行くとほっと心が緩む場所が増えてうれしい

内子町子育て支援センター
所長　佐野かおりさん

子育て中のママは町外や県外から来て間もない人も多いです。相談できる人が少ないと不安なことも多いと思うので、出会いやつながりが大切と感じています。その点で、ほこマルはとてもいいイベント。メンバーは人と関わることが大好きなママなので、話すだけで楽しいし、ほっとできます。何より本人たちが楽しんでるのがいいですね。

子育て支援センターは子育ての不安や悩みを相談できる場所で、誰でも気軽に利用できます。親子同士が交流できる機会を増やしたいので、ほこマルのようなママたち自身がつながる企画はすてきです。実は、ほこマルの２人が出会ったのがこの施設で、そこから楽しいことが始まったと知りうれしかったです。ママが生き生きした姿を見るのは、私たちも幸せなので、ほこマルだけでなく、ママたちみんなを応援したいです。友達と一緒に、ぜひここにも遊びに来てください。

内子のほっこりマルシェ vol.2

●日時　３月18日（土）
午前10時～午後３時

●場所　内子まちの駅 Nanze

内子のほっこりマルシェ Instagram

詳細はこちらでチェック▶